

石井の井戸

承

平五年(九三五年)、平将門は島広山(岩井市中根)に「石井営所」を築き、軍事拠点としました。

将門がそこに城を築く前のことです。どこかよい場所はないかと城建設の地を求めて島広山あたりを家来たちと馬でかけまわっておりまして。

しばらく走り、のどがかわいた将門が、

湧き水でもないかと

あちこちさがしていると



「水」とひとこと声がして

どこからともなく白髪の

老人があらわれたのです。

老人は、近くにあった大石を

軽々と持ちあげると、それを地面に打ち込みました。

すると、そこから清水がこんこんと湧き出てきたのです。

将門たちは、その水でやっとのどを潤すことができ、老人に感謝したということです。

この老人を「ひとことの主」としてまつたのが「一言神社」といわれています。

現在は、井戸は枯れてなくなっており、「石井の井戸跡」の碑が建っているだけです。